令和６年６月５日 15:00～16:00
府立阿武野高等学校　校長室

令和６年度　第１回学校運営協議会　議事録

１．開会

校長あいさつ
出席者紹介
校長より会長の紹介
会長のあいさつ

２．令和５年度学校経営計画及び学校評価について（校長より）

・卒業進路決定率、就職内定率、遅刻者の数値が確定した。
遅刻者に関しては前年度 200 人近く減少した。コロナ禍等で生活リズムを崩してしまい、規則正しい生活を送るのが苦手な生徒が多かったが、粘り強く遅刻指導を続けた結果である。

３．令和６年度学校経営計画及び学校評価について（校長より）

１．めざす学校像の確認　２．中期的目標について

１　多様な生徒、地域の子どもたちを預かっているからこそ、人権教育を基盤にみんなが安心できる学校を築き、地域と密着しながら地域貢献できる生徒を育てていくことを目標にしていく。

２　「１　確かな学力の育成と授業改善（１）「わかる授業」をめざした授業改善」

「生徒理解を基盤とし、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりを行う。」に変更。様々な背景があり、コロナ禍の中、学習や様々な経験ができなかった生徒たちがいることを考慮して、学習指導、生徒指導を一体化していくことを目標に掲げた。

学習支援クラウドサービスに関しては本年度よりスタディサプリを導入。５教科を中心に教員が活用を促しながら、生徒の「やればできる」という達成感につなげる。

支援教育の視点をもちながら様々な生徒に対応できるよう、人権保健部人権グループがその基礎となるような研修(生徒理解や授業の UD など)を今年度は企画予定。

「２　進路意識の高揚とコース制の充実」

「（２）自立支援コース、専門コース、選択科目等の教育内容の充実」イについて、近隣保育園と連携して、プレイルームを活用し、校内に幼児を招いて保育交流を行う。

「３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成」

カウンセリングマインドを重視した指導を引き続き行い、生徒本人が納得できるような生徒指導をめざす。また、今年度は「すまいる(教育相談室)を昼休みに開放するなど「すまいる週間」を定期的に実施し、生徒の居場所づくりにも取り組む。

「４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上」

志願者を増やす、定員充足という課題に向けて「（１）広報活動の強化」に力を入れる。中学校に阿武野高校がどのような取組を行っている高校なのかを、どんな方法でどのように伝えるかが課題である。

「５　働き方改革の推進と教職員のワークライフバランスの充実」

今年度 ICT のシステムが変わる。校務処理の効率化とともに、教員が最も力を注ぎたい、生徒と向き合う時間や授業準備の時間の確保につなげたい。

４．ホームページ、リーフレットの更新など広報について（教頭より）

デザイナーに作成を依頼し、ホームページを更新。福祉・保育専門コースやスポーツ専門コース、部活動の写真をたくさん集めるなどして、学校のイメージを刷新していく。リーフレットについても、ホームページと色調を合わせるなど統一感をもたせ、リーフレットから阿武野高校のイメージを感じてもらえるものにしていきたい。

また、府内の中学校に配られている「こころ BOOK」で本校が紹介されていたように、今後も活動の発信を続けていく。

５．　特別活動部より

令和６年度体育大会について、予行は前日の雨天のため体育館での説明のみとなったが、本番は晴天の実施を迎えることができた。応援団パフォーマンスは中間考査や部活動もあり、準備時間が少ない中、生徒たちは頑張って仕上げた。他の種目も無事実施することができ、生徒たちにとっても充実した一日になった。

今年度の学校説明会は、中学生に対するクラブ体験会が８月 21 日の午前、オープンスクールは 10 月 19 日と 11 月、１月、２月に実施。10 月 19 日はクラブ体験や体験授業も行う。本校のオープンスクールは生徒が主体的に取り組んで関わってくれており、学校の良さを伝えてくれている。

阿武高祭については、今年度から食品部門が復活する。今年は初の試みでキッチンカーを呼ぶ予定で、今後生徒会が業者への問い合わせなどを行っていく。生徒が行事の企画や運営に積極的に関わり、楽しみながら学校生活に参画していく中で、帰属意識やオーナーシップを育んでいきたい。

６．協議

（委員より）

学校に行くのが楽しいという指標が大切である。中学では４，５回アンケートを実施している。オープンスクールで生徒が主体的に活動しているのは高校生の自信にもつながり、中学生が憧れをもつきっかけになるので非常に良いと思う。あとは日程をどのように打ち出すかを考えると良い。

（会長より）
　観点別など評価についてもご意見いただきたい。
（委員より）
　中学校でも観点別評価が始まって数年経ったが、未だ途上であり十分な評価ができているとはいえない。
（会長より）
　オープンスクールの打ち出し方はどのようにすれば効果的に中学生が来るだろうか。
（委員より）
　働き方改革により、公立の小中学校の教員が土日に地域のイベントに参加することが難しくなってきている中、阿武野高校のボランティア部が地域で取り合いになっている。
（委員より）
　自身の子どもはホームページを見ながら校舎の様子、きれいさや、クラブ活動の様子などで高校を決めていた。このような点からいうと、子どもはあまり深い部分までは見ていないのかもしれないので、パンフレットなどに力を入れるのは良いと思う。
（委員より）
　自身の子どもがボランティア部に所属しており、その活動に下のきょうだいが一緒に参加した。その時の体験から阿武野高校に入学したいと言っている。やはり学校の生徒と中学生が関わる場面や機会があることが重要だと感じた。高校生が中学校を訪問するといったことも効果的かもしれない。
（首席より）
　今年度もクラブ員が母校にチラシを持っていくことを検討している。
（委員より）
　三人きょうだいの全員が阿武野高校に通っている。現在、在学中の子どもは中学３年生のときに見た阿武高際を見て入りたいと決めていた。
　そういったこれまでのつながりのあるところには魅力が伝わっているが、それ以外の方々に伝えるのが難しい。例えば、オープンスクールがあっても、学校への行き方がわからない、どんなところかわからない、このような点で選択肢から省かれてしまうのはもったいない。
（委員より）
　ボランティア部は学校名が入ったビブスをつけ活動しているし、高校生ならではの良い目線を持っているし、活動の中で社会を実感してくれていると思う。阿武野高校で育つ、こうした生徒の姿を広く発信すると良い。

７．閉会
　次回、第二回の学校運営協議会は 10 月 30 日（水）の 15 時からを予定。